

折に触れ 四字熟語

NO. 199 『禍福糾纏』 かふく きゅうぼく

< 意味 > 災いと幸せは順繰りにやってくるということ。もとは、より合わせた縄のように禍福は表裏の関係で、災いが福に転じ福が災いに転じてきわまりがない意。一般には「禍福は糾^{あざな}える縄のごとし」と用いる。

< 出典 > 『漢書』賈誼伝「夫れ禍と福とは何ぞ糾^そえる纏^{あざな}に異ならん」

語 釈：「糾纏」は、より合わせた縄。

一 言：先般、変電所の火災で首都圏の JR 電車が停まった出来事がありました。また、和歌山では給水管が壊れ水道水が使えなくなった事故もありました。どちらも突然起きて程なく復旧を見た訳ですが、乗客や住民などの当事者はこの四字熟語のような心境を味わったのではないのでしょうか。

参考文献：岩波書店「四字熟語辞典」